

座 長 集 約

関東通信病院 若 松 修

本発表は、昨年の循環器撮影装置のQCについてのアンケート調査報告に引き続き、今年度はその最終結果報告が行われた。

発表の内容は、装置管理の必要性について多角的に述べ、実際の保守点検がどうあるべきかを述べられた。更に、どの様なQCを行うべきかについて下記のような内容を具体的に示された。

- ・受入試験—性能：精度の確認、初期値の確認
安全：機械的、電氣的、放射線防護
関連機器の試験、設置環境の問題
- ・始業点検、終業点検—具体例を交えて
- ・週間点検—具体例を交えて
- ・定期点検

最後に、まとめとして、

- 1、装置管理を行うことは医療機関の責任である。
- 2、装置管理は放射線技師の業務であるが、専門業者に委託することも可能である。
- 3、保守点検を専門業者に委託する場合はユーザが必要な項目を把握し、事前にメーカーと協議を行って依頼する必要がある。
- 4、画質、被曝に影響する項目の点検は、直接日常の臨床につながるため、日々のデータ収集を行う必要性があり、この点に関してはメーカーではデータ収集が難しく、ユーザが主となり行う必要性がある。

の4点を上げ、報告は終了した。

今回の報告はわれわれ循環器撮影装置を扱う技師のために、管理の方法を体系的に検討し、その方法を具体的に示して頂きました。

循環器撮影装置は他の撮影装置同様にオートマチック化され、最近では放射線技師のQCに関する業務形態も変化してきているものと思われる。われわれのQCは管理のための技術として「前向きの管理」でなければならない。QC（品質管理）

は「買い手の要求にあった品物の品質またはサービスを経済的に作り出すための手段の体系」と定義され、これを我々の立場に置き換えると「患者の診断に十分に答えられる画像を経済的に生み出すために必要な管理のための技術」と言えるものとする。同様にQA（品質保証）は「医師が診断のために必要とする画像の品質が保証されるための技師の活動」と言えるものとする。

帝京大学市原病院：最近の装置はブラックボックスが多いですが、九州大学病院で定期点検をメーカーサイドが実施した場合、そのあたりはどの様に対処されていますか？

演者：当院では従来より装置管理を行ってきており測定機器等が揃っているのですが、技師で出来る測定は自分たちで行っている。最近の装置はマニュアルの撮影条件でのテストが出来ない装置が多いので、非常に難しいと思いますが、メーカーが実施しなくてはならないところまで、できることは自分のところで行っているのが現状です。

点検項目等の詳細については会誌に掲載される予定ですので、各施設では今回の報告を十分に検討され、各自の施設の実状にあった管理方法を確立され、前向きに管理を実践されることを期待します。

今回、2年間にわたり調査・検討された研究班の方々に敬意を表し、今後ますますのご活躍を期待します。

また、今回示されたQCの実践がどのように実施されたかのフォローも今後研究会の課題として装置管理が十分に実施されるべく取り組むことも必要かと考えます。